

[問]

昭和 39 年度 (問題)

午 前 の 部

1.  $n$ 年間、各年始めに  $1 + (\text{前回までの給付の合計の} k \text{倍})$  を給付する年金の現価は、予定利率を変更することによって、 $n$ 年間、各年始めに  $1$  を給付する年金の現価に等しくなることを示せ。

ただし、 $k$  は一定で当初の予定利率より小さいものとし、初回の給付は  $1$  とする。

2. 保険期間中の死亡に対し、次のような給付を行なう  $n$ 年満期生存保険がある。

(1) 第 1 保険年度内の死亡に対し  $0$

(2) 第  $t$  ( $n \geq t > 1$ ) 保険年度内の死亡に対し、第  $t-1$  年度末責任準備金 (純保険料式) を予定利率で 1 年利殖した金額を第  $t$  年度末に支払う。

$x$  才加入の年払平準純保険料を求めよ。

3. 元本 1 なる元本保証終身年金の年金額を期始払の場合  $b$  とすれば、期末払の場合の年金額は  $\frac{b}{1-b}$  となることを証明せよ。

ただし、この場合元本保証とは、既に支払った年金額の合計が元本に達しない場合に死亡が起きれば、その差額を死亡直後に支払うものをいう。また、付加保険料はないものとする。

午 後 の 部

次の 6 問のうち、4, 5, 6 の 3 問または、7, 8, 9 の 3 問のどちらかの組をえらんで解答せよ。

4. ある年齢において終身保険の一時払保険料は  $0.24203$  であり、また年払保険料は  $0.01754$  であるという。予定利率を求めよ。ただし、保険金は  $1$  とし、保険金は期末払、付加保険料は

	一 時 払	年 払
新 契 約 費	保険金対千 30 円	保険金対千 30 円
維 持 費	保険金対千 2 円	保険金対千 5 円
集 金 費	な し	保険料の 3%

とする。

$$5. \quad \begin{cases} g'_y = g_y + \frac{k}{v \ddot{a}_{y+1}} & (x \leq y < x+m) \\ k = \frac{\ddot{a}_{x+m}}{\ddot{a}'_{x+m}} - 1 \end{cases}$$

のとき終身保険，保険金期末払について

$${}_tV_x = {}_tV'_x \quad (0 \leq t \leq m)$$

なることを証明せよ。

6. m年払込 n年満期生存保険で，満期前の死亡者には死亡の際既払込保険料を返還する場合の年払純保険料および営業保険料を求めよ。

たゞし，新契約費は保険金の  $\alpha$  倍，維持費は保険料払込中が保険金の  $\gamma$  倍と保険料の  $\beta$  倍，払済後が保険金の  $\delta$  倍とする。

7. 年金が年 4 回期末払，かつ，死亡の際，死亡した日の属する月までの給付が支払われる場合の終身年金現価式

$${}^{(12)}a_x \doteq \frac{1}{D_x} \left( N_x - \frac{5}{8} D_x + \frac{1}{6} \bar{M}_x \right)$$

を証明せよ。

8. 年金制度において，その総合保険料率および到達年令式保険料率を夫々  $P(\text{Agg})$ ，

$P(x, t)$ ， $(x = x_0, \dots, r-1; t = 0, \dots, r-x_0-1)$  としたときに，次の

関係が成立することを示せ。

$$\max_{x, t} P(x, t) \geq P(\text{Agg}) \geq \min_{x, t} P(x, t)$$

9. 年金額が加入全期間の平均給与に，加入期間の年数によって定まる支給率を乗じて得られる退職年金制度（遺族給付なし）の平準純保険料式責任準備金を

- (1) 過去の実績給与の平均に，給与指数を含まない責任準備金率を乗じて得られる部分と

〔問〕

(2) その時の現在給与に、給与指数を含んだ責任準備金率を乗じて得られる部分とに分けて、それぞれの算式を示せ。

# 昭和 39 年度 ( 解答 )

## 午 前 の 部

1. オ t 回目の給付を  $A_t$  で表わすと,  $t > 1$  の場合, 題意により

$$A_t = 1 + k \sum_{\tau=1}^{t-1} A_{\tau} \quad \text{従って} \quad A_{t-1} = 1 + k \sum_{\tau=1}^{t-2} A_{\tau} \cdots \cdots (*)$$

また,  $A_t = 1 + k (A_{t-1} + \sum_{\tau=1}^{t-2} A_{\tau})$  であるから(\*)を用いて  $A_t$  と  $A_{t-1}$  との間に

$$A_t = (1+k) A_{t-1}$$

なる関係のあることがわかる。

$$\text{従って} \quad A_t = (1+k)^{t-1} A_1 = (1+k)^{t-1} \quad (\because \text{題意により } A_1 = 1)$$

よって, この年金の現価は, 当初の予定利率を  $i$  とすれば,

$$\sum_{\tau=0}^{n-1} v^{\tau} A_{\tau+1} = \sum_{\tau=0}^{n-1} v^{\tau} (1+k)^{\tau} = \sum_{\tau=0}^{n-1} \left( \frac{1+k}{1+i} \right)^{\tau} = \sum_{\tau=0}^{n-1} \left( \frac{1}{1 + \frac{i-k}{1+k}} \right)^{\tau}$$

であるから,  $i \rightarrow j = \frac{i-k}{1+k}$  なる変更により,  $\sum_{\tau=0}^{n-1} v'^{\tau} \left( v' = \frac{1}{1+j} \right)$  となる。

(なお, 生命関数を用いても, 本質的に変りはない。)

2. 求める保険料を  $P$ , オ t 年度末責任準備金を  ${}_t V$  とすれば, 責任準備金の漸化式は次のようになる。

$$v p_{x+t} \cdot {}_{t+1} V = {}_t V + P - v g_{x+t} \cdot (1+i) {}_t V \quad (\text{但し } i \text{ は予定利率})$$

$$\text{右辺} = {}_t V + P - g_{x+t} \cdot {}_t V = (1 - g_{x+t}) {}_t V + P = p_{x+t} \cdot {}_t V + P$$

$$\therefore v p_{x+t} \cdot {}_{t+1} V = p_{x+t} \cdot {}_t V + P$$

両辺に  $\frac{v^t}{p_{x+t}}$  を乗じて  $t=0, 1, \dots, n-1$  とし, 辺々相加えて  ${}_0 V = 0$ ,

${}_n V = 1$  に注意すれば,

$$v^n = P \cdot \sum_{\tau=0}^{n-1} \frac{v^{\tau}}{p_{x+\tau}}$$

$$\therefore P = \frac{v^n}{\sum_{\tau=0}^{n-1} \frac{v^\tau}{p_{x+\tau}}} = \frac{v^n}{\sum_{\tau=0}^{n-1} v^{\tau+1} \frac{D_{x+\tau}}{D_{x+\tau+1}}}$$

3. 元本1なる元本保証終身年金の期始払の年金額を  $b$  とすれば

$$1 = b \ddot{a}_x + \sum_{t=1}^n \frac{\bar{C}_{x+t-1} (1-bt)}{D_x} \dots \dots \dots (1)$$

ただし、 $\sum'$  は正のもの全部を加える。すなわち  $bn \leq 1 < b(n+1)$

いま

$$\frac{b}{1-b} = b'$$

とおくと

$$b = \frac{b'}{1+b'}$$

これを(1)に代入すると

$$1 = \frac{b'}{1+b'} \ddot{a}_x + \sum_{t=1}^n \frac{\bar{C}_{x+t-1} (1 - \frac{b'}{1+b'} t)}{D_x}$$

これから

$$1+b' = b' \ddot{a}_x + \sum_{t=1}^n \frac{\bar{C}_{x+t-1} \{1-b'(t-1)\}}{D_x}$$

すなわち

$$1 = b' a_x + \sum_{t=1}^n \frac{\bar{C}_{x+t-1} \{1-b'(t-1)\}}{D_x} \dots \dots \dots (2)$$

ただし、 $\sum'$  は正のもの全部を加える。すなわち  $b'(n-1) \leq 1 < b'n$

(2)式は、元本1なる元本保証終身年金の期末払の場合の年金額が  $b'$  であることを示している。

[別 解]

元本 1 なる元本保証終身年金の期始払の場合の年金額を  $b$  とすれば,

$$1 = b \ddot{a}_x + \sum_{t=1}^n \bar{C}_{x+t-1} (1-bt) / D_x$$

ただし  $bn \leq 1 < b(n+1)$

これから

$$1-b = b a_x + \sum_{t=1}^n \bar{C}_{x+t-1} \{ (1-b) - b(t-1) \} / D_x$$

これは元本が  $1-b$  であるときの期末払の年金額が  $b$  であることを示している。したがって元本が 1 であるならば、このときの年金額は  $\frac{b}{1-b}$  である。

午後の部

4. 題意により

$$\text{一時払} \quad A_x + .030 + .002 \ddot{a}_x = .24203 \quad \dots\dots\dots (1)$$

$$\text{年払} \quad \frac{1}{.97} (P_x + \frac{.030}{\ddot{a}_x} + .005) = .01754$$

年払の式から

$$\frac{A_x + .030 + .005 \ddot{a}_x}{.97 \ddot{a}_x} = .01754$$

$$A_x + .030 + .005 \ddot{a}_x = .017014 \ddot{a}_x$$

$$A_x + .030 - .012014 \ddot{a}_x = 0 \quad \dots\dots\dots (2)$$

$$(1)-(2) \quad .014014 \ddot{a}_x = .24203$$

$$\ddot{a}_x = 17.270$$

(1)に代入して

$$A_x = .21203 - .002 \times 17.270 = .17749$$

$A_x = 1 - d \ddot{a}_x$  なることから

$$d = \frac{1 - A_x}{\ddot{a}_x} = \frac{.82251}{17.270} = .04763$$

$$d = \frac{i}{1+i} \text{ なることから}$$

$$i = \frac{d}{1-d} = \frac{.04763}{.95237} = .05$$

答 5%

5. 
$$g'_y = g_y + \frac{k}{v \ddot{a}_{y+1}} \quad (x \leq y < x+m)$$

なることから同じ  $y$  に対して

$$p_y = p'_y + \frac{k}{v \ddot{a}_{y+1}}$$

一方

$$k = \frac{\ddot{a}_{x+m}}{\ddot{a}'_{x+m}} - 1$$

なることから

$$\ddot{a}_{x+m} = (1+k) \ddot{a}'_{x+m}$$

ここで

$$\begin{aligned} \ddot{a}_{x+m-1} &= 1 + v p_{x+m-1} \ddot{a}_{x+m} \\ &= 1 + v \left( p'_{x+m-1} + \frac{k}{v \ddot{a}_{x+m}} \right) \ddot{a}_{x+m} \\ &= 1 + v p'_{x+m-1} \ddot{a}_{x+m} + k \\ &= (1+k) + v p'_{x+m-1} (1+k) \ddot{a}'_{x+m} \\ &= (1+k) (1 + v p'_{x+m-1} \ddot{a}'_{x+m}) \\ &= (1+k) \ddot{a}'_{x+m-1} \end{aligned}$$

同様に

$$\ddot{a}_{x+m-2} = (1+k) \ddot{a}'_{x+m-2}$$

.....

$$\ddot{a}_x = (1+k) \ddot{a}'_x$$

さて

$${}_tV_x = {}_tV'_x$$

を証明するには

$$1 - \frac{\ddot{a}_{x+t}}{\ddot{a}_x} = 1 - \frac{\ddot{a}'_{x+t}}{\ddot{a}'_x}$$

$$\text{から } \frac{\ddot{a}_{x+t}}{\ddot{a}'_{x+t}} = \frac{\ddot{a}_x}{\ddot{a}'_x} \quad (0 \leq t \leq m) \dots\dots\dots (1)$$

を示せばよい。

ところが

$$\frac{\ddot{a}_{x+t}}{\ddot{a}'_{x+t}} = 1+k \quad (0 \leq t \leq m)$$

なることは前の結論から出ているので (1)式は成立する。

6.  ${}_m\pi_{x:\overline{n}}$  ,  ${}_m\pi'_{x:\overline{n}}$  を夫々求める純保険料および営業保険料とする。

純保険料の収入現価は、

$${}_m\pi_{x:\overline{n}} \frac{N_x - N_{x+m}}{D_x} = {}_m\pi_{x:\overline{n}} \cdot \ddot{a}_{x:\overline{n}} \dots\dots\dots (1)$$

である。

死亡者には既払込保険料(もちろん既払込み営業保険料)を返還するのであるから、死亡返還金は

$k \cdot {}_m\pi'_{x:\overline{n}}$  ,  $k \leq m$  才  $k$  ( $k \leq m$ ) 保険年度中の死亡者に対する死亡返還金  
 $m \cdot {}_m\pi'_{x:\overline{n}}$  才  $m+1$  保険年度以降の死亡者に対する死亡返還金

であり、この現価は

$$\frac{1}{D_x} \left( \sum_{k=1}^m k \cdot {}_m\pi'_{x:\overline{n}} \cdot \bar{C}_{x+k-1} + \sum_{k=m+1}^n m \cdot {}_m\pi'_{x:\overline{n}} \bar{C}_{x+k-1} \right)$$

$$\begin{aligned}
&= \frac{1}{D_x} \cdot {}_m \pi'_{x:\overline{n}} \left( \sum_{k=1}^m k \cdot \bar{C}_{x+k-1} + \sum_{k=m+1}^n m \cdot \bar{C}_{x+k-1} \right) \\
&= \frac{1}{D_x} \cdot {}_m \pi'_{x:\overline{n}} \{ \bar{R}_x - \bar{R}_{x+m} - m\bar{M}_{x+m} + m(\bar{M}_{x+n} - \bar{M}_{x+n}) \} \\
&= {}_m \pi'_{x:\overline{n}} \frac{\bar{R}_x - \bar{R}_{x+m} - m\bar{M}_{x+n}}{D_x} \dots\dots\dots (2)
\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
\therefore \bar{R}_x - \bar{R}_{x+m} &= \sum_{k=1}^m \bar{M}_{x+k-1} = \sum_{k=1}^m \{ k - (k-1) \} \bar{M}_{x+k-1} \\
&= \sum_{k=1}^m k \bar{M}_{x+k-1} - \sum_{k=1}^m (k-1) \bar{M}_{x+k-1} \\
&= \sum_{k=1}^m k \bar{M}_{x+k-1} - \sum_{k=1}^{m-1} k \bar{M}_{x+k} \\
&= \sum_{k=1}^m k (\bar{M}_{x+k-1} - \bar{M}_{x+k}) + m\bar{M}_{x+m} \\
&= \sum_{k=1}^m k \bar{C}_{x+k-1} + m\bar{M}_{x+m}
\end{aligned}$$

となる。

満期のさいの支払現価は

$$\frac{D_{x+n}}{D_x} = {}_n E_x \dots\dots\dots (3)$$

であるから、(1), (2), (3)式より、純保険料は

$${}_m \pi_{x:\overline{n}} \cdot \ddot{a}_{x:\overline{n}} = {}_m \pi'_{x:\overline{n}} \cdot {}_m (\bar{IA})_{x:\overline{n}} + {}_n E_x \dots\dots\dots (4)$$

$$\text{こゝに, } {}_m (\bar{IA})_{x:\overline{n}} = \frac{\bar{R}_x - \bar{R}_{x+m} - m\bar{M}_{x+n}}{D_x}$$

である。

営業保険料は純保険料と付加保険料から、

$${}_m \pi'_{x:\overline{m}} \cdot \ddot{a}_{x:\overline{m}} = {}_m \pi_{x:\overline{m}} \cdot \ddot{a}_{x:\overline{m}} + \alpha + (\gamma - \delta) \ddot{a}_{x:\overline{m}} + \delta \ddot{a}_{x:\overline{m}} + \beta {}_m \pi'_{x:\overline{m}} a_{x:\overline{m}} \dots \dots \dots (5)$$

となる。

(4)式を(5)式に代入して  ${}_m \pi'_{x:\overline{m}}$  について解くと、

$${}_m \pi'_{x:\overline{m}} = \frac{{}_n E_x + \alpha + (\gamma - \delta) \ddot{a}_{x:\overline{m}} + \delta \ddot{a}_{x:\overline{m}}}{(1 - \beta) \ddot{a}_{x:\overline{m}} - {}_m (IA)_{x:\overline{m}}} \dots \dots \dots (6)$$

となり、(6)式を(4)式に代入して  ${}_m \pi_{x:\overline{m}}$  について整理すると

$${}_m \pi_{x:\overline{m}} = \frac{{}_n E_x}{\ddot{a}_{x:\overline{m}}} + \frac{{}_n E_x + \alpha + (\gamma - \delta) \ddot{a}_{x:\overline{m}} + \delta \ddot{a}_{x:\overline{m}}}{(1 - \beta) \ddot{a}_{x:\overline{m}} - {}_m (IA)_{x:\overline{m}}} \frac{{}_m (IA)_{x:\overline{m}}}{\ddot{a}_{x:\overline{m}}}$$

となる。

7. 年4回期末生存者に支払う分割払年金の現価は Woolhouse の公式

$$a_x^{(m)} = \frac{1}{D_x} \left( \sum_{t=1}^{\infty} D_{x+t} + \frac{m-1}{2m} D_x + \frac{m^2-1}{12m^2} \frac{d D_x}{d_x} + \dots \dots \dots \right)$$

において微係数を含む項を省略し、 $m=4$ として整理すれば

$$\doteq \frac{1}{D_x} \left( \frac{3}{8} D_x + N_{x+1} \right) = \frac{1}{D_x} \left( N_x - \frac{5}{8} D_x \right) \dots \dots \dots (1)$$

つぎに、死亡者に対する給付現価を月別に細分し、総合すると

$${}^{(12)}a_x = \frac{1}{D_x} \sum_{t=1}^{\infty} \sum_{j=1}^{12} \left( \frac{1}{12} \times \frac{j-3\gamma}{12} \right) \bar{c}_{x+t+\frac{j}{12}}$$

こゝに  $\gamma$  は  $j-3\gamma > 0$  なる整数とする。したがって  $0 \leq \gamma < 4$

上式で  $\bar{c}_{x+t+\frac{j}{12}} \doteq \bar{c}_{x+t}$  とすれば

$$\doteq \frac{1}{D_x} \cdot \sum_{t=1}^{\infty} \bar{c}_{x+t} \sum_{j=1}^{12} \left( \frac{1}{12} \times \frac{j-3\gamma}{12} \right) = \frac{1}{6} \frac{1}{D_x} \sum_{t=1}^{\infty} \bar{c}_{x+t} = \frac{1}{6} \cdot \frac{1}{D_x} \cdot \bar{M}_x \dots \dots (2)$$

よって(1)と(2)を加えると

$$a_x^{(4)} = \frac{1}{D_x} (N_x - \frac{5}{8} D_x + \frac{1}{6} \bar{M}_x)$$

なお、前段生存者給付年金現価は

$$a_x^{(4)} = \frac{1}{D_x} \sum_{t=0}^{\infty} \sum_{i=1}^4 D_{x+t+\frac{i}{4}} \times \frac{1}{4}$$

であり、この式において近似的に

$$D_{x+t+\frac{i}{4}} \doteq \frac{1}{4} ((4-i) D_{x+t} + i D_{x+t+1})$$

とおけば同一の結果をうる。

8. 先づP(Agg)は、Closedによる保険料率を表わすものとする。今(x, t)なるものに対応する給付現価及び給料額を、夫々  $S_y(x, t)$  ( $x \leq y < r$ ),  $B(x, t)$  とすれば、P(Agg)は次の算式により表わされる。

$$P(Agg) = \frac{\sum_{x,t} (B(x, t) \frac{\sum_{y=x}^r S_y(x, t) b_y \bar{C}_y}{b_x D_x})}{\sum_{x,t} B(x, t) \cdot \frac{1}{b_x D_x} \cdot \sum_{y=x}^{r-1} b_y D_y}$$

一方、P(x, t)は次の様にもとめられる。

$$P(x, t) = \frac{\sum_{y=x}^r S_y(x, t) b_y \bar{C}_y}{\sum_{y=x}^{r-1} b_y D_y}$$

従って

$$P(Agg) = \frac{\sum_{x,t} B(x, t) \cdot P(x, t) \frac{\sum_{y=x}^{r-1} b_y D_y}{b_x D_x}}{\sum_{x,t} B(x, t) \frac{\sum_{y=x}^{r-1} b_y D_y}{b_x D_x}}$$

となるか、これは  $P(\text{Agg})$  が、 $B(x, t) \frac{\sum_{y=x}^{r-1} b_y D_y}{b_x D_x}$  による  $P(x, t)$  の加重平

均として表わせられる事を示している。

従って、

$$\text{Max}_{x, t} P(x, t) \geq P(\text{Agg}) \geq \text{Min}_{x, t} P(x, t)$$

次に  $P(\text{Agg})$  が、Open による保険料率を表わす場合は次の通りである。

先づ新規加入の給料分布を  $B_e(x)$  で表わすものとすれば、

$$P(\text{Agg}) = \frac{\sum_{x, t} (B(x, t) \frac{\sum_{y=x}^r S_y(x, t) b_y \bar{C}_y}{b_x D_x}) + \frac{1}{\log_e(1+i)^x} \sum_{x} (B_e(x) \frac{\sum_{y=x}^r S_y(x, 0) b_y \bar{C}_y}{b_x D_x})}{\sum_{x, t} B(x, t) \frac{\sum_{y=x}^{r-1} b_y D_y}{b_x D_x} + \frac{1}{\log_e(1+i)^x} \sum_{x} B_e(x) \frac{\sum_{y=x}^{r-1} b_y D_y}{b_x D_x}}$$

$$= \frac{\sum_{x, t} B(x, t) P(x, t) \frac{\sum_{y=x}^{r-1} b_y D_y}{b_y D_y} + \frac{1}{\log_e(1+i)^x} \sum_{x} B_e(x) P(x, 0) \frac{\sum_{y=x}^{r-1} b_y D_y}{b_x D_x}}{\sum_{x, t} B(x, t) \frac{\sum_{y=x}^{r-1} b_y D_y}{b_x D_x} + \frac{1}{\log_e(1+i)^x} \sum_{x} B_e(x) \frac{\sum_{y=x}^{r-1} b_y D_y}{b_x D_x}}$$

となり、これも矢張り  $P(\text{Agg})$  が  $P(x, t)$  の加重平均として表わされることを示している。

## 9. 問題の本質を害なわない程度に簡略化して考えることにする。

まず、次のように記号を定義する。

加入年令  $\chi_0$   
 定年年令および支給開始年令  $\chi_r$   
 支給乗率  $\alpha_t^{(w)}$ ,  $\alpha_{\chi_r - \chi_0}^{(r)}$

現在給与  $B_x$

平均給与  $\widetilde{B}_x \equiv \frac{1}{\chi - \chi_0 + 1} \sum_{t=0}^{x-x_0} B_{x_0+t}$ ,  $\widetilde{B}_{x_r} \equiv \frac{1}{\chi_r - \chi_0} \sum_{t=0}^{x_r-x_0-1} B_{x_0+t}$

給与指数  $b_x$

据置年金現価率  $a_x^{(w)} \equiv {}_{x_r-x-\frac{1}{2}} | \ddot{a}_{x+\frac{1}{2}}$ ,  $a_{x_r}^{(r)} \equiv a_{x_r}$

加入, 拠出, 給付は年初1回とする。

責任準備金  ${}_t V_{x_0}$  の算式は次のとおりである。

$${}_t V_{x_0} = \frac{\sum_{k=0}^{x_r-x_0-t-1} \overline{C}_{x_0+t+k}^{(w)} \cdot \widetilde{B}_{x_0+t+k} \cdot a_{x_0+t+k}^{(w)} \cdot \alpha_{t+k}^{(w)} + D_{x_r} \cdot \widetilde{B}_{x_r} \cdot a_{x_r}^{(r)} \cdot \alpha_{x_r-x_0}^{(r)}}{D_{x_0+t}} - \frac{\sum_{k=0}^{x_r-x_0-t-1} D_{x_0+t+k} \cdot B_{x_0+t+k} \cdot P_{x_0}}{D_{x_0+t}}$$

これに

$$\widetilde{B}_{x_0+t+k} = \frac{1}{t+k+1} \left\{ \sum_{l=0}^{t-1} B_{x_0+l} + \sum_{l=t}^{t+k} B_{x_0+l} \right\}$$

$$\widetilde{B}_{x_r} = \frac{1}{\chi_r - \chi_0} \left\{ \sum_{l=0}^{t-1} B_{x_0+l} + \sum_{l=t}^{x_r-x_0-1} B_{x_0+l} \right\}$$

を代入して整頓すると,

$${}_t V_{x_0} = \frac{\sum_{k=0}^{x_r-x_0-t-1} \overline{C}_{x_0+t+k}^{(w)} \cdot \frac{1}{t+k+1} \left\{ \sum_{l=0}^{t-1} B_{x_0+l} + \sum_{l=t}^{t+k} B_{x_0+l} \right\} a_{x_0+t+k}^{(w)} \cdot \alpha_{t+k}^{(w)}}{D_{x_0+t}} + \frac{D_{x_r} \cdot \frac{1}{\chi_r - \chi_0} \left\{ \sum_{l=0}^{t-1} B_{x_0+l} + \sum_{l=t}^{x_r-x_0-1} B_{x_0+l} \right\} a_{x_r}^{(r)} \cdot \alpha_{x_r-x_0}^{(r)} - \sum_{k=0}^{x_r-x_0-t-1} D_{x_0+t+k} B_{x_0+t+k} P_{x_0}}{D_{x_0+t}}$$

$$\begin{aligned}
&= \left[ \sum_{k=0}^{x_r-x_0-t-1} \frac{1}{C_{x_0+t+k}^{(w)}} \frac{t}{t+k+1} \widetilde{B}_{x_0+t-1} \cdot a_{x_0+t+k}^{(w)} \cdot \alpha_{t+k}^{(w)} \right. \\
&+ \left. D_{x_r} \frac{t}{\chi_r - \chi_0} \widetilde{B}_{x_0+t-1} \cdot a_{x_r}^{(r)} \cdot \alpha_{x_r-x_0}^{(r)} \right] / D_{x_0+t} \\
&+ \left[ \sum_{k=0}^{x_r-x_0-t-1} \frac{1}{C_{x_0+t+k}^{(w)}} \frac{1}{t+k+1} \sum_{l=t}^{t+k} B_{x_0+l} \cdot a_{x_0+t+k}^{(w)} \cdot \alpha_{t+k}^{(w)} \right. \\
&+ \left. D_{x_r} \frac{1}{\chi_r - \chi_0} \sum_{l=t}^{x_r-x_0-1} B_{x_0+l} \cdot a_{x_r}^{(r)} \cdot \alpha_{x_r-x_0}^{(r)} - \sum_{k=0}^{x_r-x_0-t-1} D_{x_0+t+k} \cdot B_{x_0+t+k} P_{x_0} \right] / D_{x_0+t} \\
&= \widetilde{B}_{x_0+t-1} \cdot {}_t V_{x_0}^{(\sim t)} + B_{x_0+t-1} \cdot {}_t V_{x_0}^{(t\sim)}
\end{aligned}$$

こゝに

$$\begin{aligned}
{}_t V_{x_0}^{(\sim t)} &\equiv \left[ \sum_{k=0}^{x_r-x_0-t-1} \frac{1}{C_{x_0+t+k}^{(w)}} \cdot a_{x_0+t+k}^{(w)} \frac{1}{t+k+1} \alpha_{t+k}^{(w)} \right. \\
&+ \left. D_{x_r} \cdot a_{x_r}^{(r)} \frac{1}{\chi_r - \chi_0} \alpha_{x_r-x_0}^{(r)} \right] \cdot \frac{t}{D_{x_0+t}}
\end{aligned}$$

$${}_t V_{x_0}^{(t\sim)} \equiv \frac{\sum_{k=0}^{x_r-x_0-t-1} \frac{1}{C_{x_0+t+k}^{(w)}} \cdot \frac{1}{t+k+1} \sum_{l=t}^{t+k} b_{x_0+l} \cdot a_{x_0+t+k}^{(w)} \cdot \alpha_{t+k}^{(w)}}{D_{x_0+t} b_{x_0+t-1}}$$

$$+ \frac{D_{x_r} \cdot \frac{1}{\chi_r - \chi_0} \sum_{l=t}^{x_r-x_0-1} b_{x_0+l} \cdot a_{x_r}^{(r)} \cdot \alpha_{x_r-x_0}^{(r)} - \sum_{k=0}^{x_r-x_0-t-1} D_{x_0+t+k} b_{x_0+t+k} P_{x_0}}{D_{x_0+t} b_{x_0+t-1}}$$

$$D_{x_0+t} b_{x_0+t-1}$$

$$\equiv {}_t V_{x_0} - {}_t V_{x_0}^{(\sim t)} \cdot \frac{\widetilde{b}_{x_0+t-1}}{b_{x_0+t-1}}$$

$${}^tV_{x_0} \equiv \frac{\sum_{k=0}^{x_r-x_0-t-1} \overline{d}_{x_0+t+k}^{(w)} \cdot \widetilde{b}_{x_0+t+k} \cdot a_{x_0+t+k}^{(w)} \cdot \alpha_{t+k}^{(w)} + D_{x_r} \widetilde{b}_{x_r} \cdot a_{x_r}^{(r)} \cdot \alpha_{x_r-x_0}^{(r)}}{D_{x_0+t} \cdot b_{x_0+t-1}} - \frac{\sum_{k=0}^{x_r-x_0-t-1} D_{x_0+t+k} \cdot b_{x_0+t+k} \cdot P_{x_0}}{D_{x_0+t} \cdot b_{x_0+t-1}}$$